

「キノコを楽しむ会」(令和元年11月10日開催)

本日は「おけがや自然塾」と兼ねて開催したため、一般参加者と合わせて80人の参加がありました。

1 講師から事前説明

昔は山に入るとたくさんのキノコが採れましたが、近年は温暖化や里山が放置されたことなどにより山の様子が変わり、キノコが大変少なくなりました。昔は桶ヶ谷沼周辺の林はキノコの宝庫であり、マツタケも見られましたが、今年は台風の影響もあり特にキノコが少なく、桶ヶ谷沼周辺を歩いてもほとんど見られない状況です。

キノコの本体は菌糸(きんし)であり、菌糸から出た孢子(ほうし)の集まりがキノコになります。キノコ類は種類が多く似たものが多いので、採ったキノコを1冊の図鑑のみで絵合わせをして食べることは非常に危険です。

2 野外観察

木道から台地へ上がり野外観察をしました。かつては、水分を好むヒラタケが沼の中の木にも生えていましたが、近年は見られなくなりました。観察路ではドクベニタケ、ハツタケやサルノコシカケの仲間が多く見られました。台地では、強い粘液におおわれたヌメリイグチが何カ所かで見られました。

野外観察の途中やビジターセンターへ戻った後、本日採集したキノコの種類を講師の指導を受けながら調べました。

3 キノコの人工栽培

ビジターセンターの駐車場へ集合し、ヒラタケ、キクラゲ、タモギタケ、ナメコの人工栽培を行いました。栽培方法の説明を受けた後、参加した家族ごとに4種類のキノコの種駒を配布し、家族で協力しながら「ほだ木」へドリルで穴を開け、種駒の打ち込みを行いました。ナメコは2年たないと収穫できませんが、キクラゲとタモギタケは来年の春から夏にかけて、ヒラタケは来年の秋には収穫ができるということで、収穫を楽しみにして打ち込み作業を行いました。



事前説明



野外観察風景



野外観察風景



ヌメリイグチ発見



キノコの駒打ち風景



キノコの駒打ち風